

編集後記

今年5月の日本整形外科学会学術総会は、大川 淳会長のもと、久しぶりにon siteを中心として神戸で開催されました。現地参加者は約5,000名とのことでしたが、各会場ではコロナ前と同様、熱気あふれるディスカッションが交わされました。残念ながら総会の目玉の一つであるスポーツイベントは開催されませんでした。が、“神戸の夜風を楽しむ会”といった感染に配慮した様々なイベントも企画され、記憶に残る素晴らしい学会だったと思います。6月にはJOSKAS・JOSSM合同学会が札幌で、その後、日本骨折治療学会学術集会、日本リハビリテーション医学会学術集会が横浜で現地開催され、学会活動も本格的に再開された感があります。やはりface to faceの学会は良いものです。この流れが止まらないことを祈りたいと思います。

さてこの週末は、このコロナ禍で習慣となった学会のon demand配信やWEBセミナーを幾つか聴講しました。WEBセミナーの中でも、土田芳彦先生（湘南鎌倉総合病院）が中心となって企画している外傷セミナーは特筆すべきものです。学会では討議時間に限りがありますが、このセミナーでは演者のプレゼン資料を事前学習することができ、講演前に演者に質問することもできます。セミナー配信中は当然ながら全国の聴衆と共にon timeでディスカッションし、さらにはホームページ上での事後討論へと続きます。重度四肢外傷は症例一つひとつが千差万別であり、われわれの経験値を高めるのはそう容易ではありません。定型的

治療で対応できないことがある一方、現場での処置は一刻を争います。経験がなくとも、このようなセミナーで各症例の治療方法をエキスパートの先生方と意見交換することが、個々のレベルアップにつながるものと信じます。外傷の先生曰く、“初期治療＝初心者治療”となるわけにはいきません。

今月の特集は、国際医療福祉大学 石井 賢先生のご企画による「上位頸椎疾患・外傷の病態と治療」です。近年、若年者の頸椎・頸髄損傷は減少し、生物学的製剤の出現によりRAの上位頸椎不安定症をみる機会も少なくなりました。逆にこの超高齢社会の中で、高齢者の上位頸椎損傷が増加しています。これは高齢者人口の増加だけではなく、中下位頸椎の変性により可動域が減少するため、上位頸椎損傷が多くなるということです。本特集によると、65歳以上の頸椎損傷症例における上位頸椎損傷は7割にも及ぶようです。学会やWEBセミナーも良いですが、やはり知識のブラッシュアップには、このような特集号をじっくり読むのも良いかと思います。

来年の日本整形外科学会学術総会は尾崎敏文会長のもと、横浜で開催されます。現在のところ、恒例の各種スポーツイベントが行われることが既に決まっております。各地区予選を勝ち抜いたチームによる熱い戦いが来年みられることを期待しています。

（石橋恭之）

「整形・災害外科」第65巻 第9号（8月号） 2022年8月1日発行（毎月1回1日発行） 定価 2,860 円（本体 2,600 円＋税 10%） 年間購読料金 定価 44,660 円（本体 40,600 円＋税 10%） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03 (5226) 2791
--	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。